

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○大須田祐亮 大内みふか

【概 要】

発達障害理学療法学において学習した内容に基づき、発達段階に生じる中枢神経系障害や末梢神経系障害、筋骨格系障害など、理学療法の対象となる障害像を持った子どもに対する理学療法評価および介入について、体験を通じて実際の内容を理解する。講義や映像・画像を用いた演習、および学生相互の実技実習により、評価・介入の実際を体験して習得を促進する。

泌尿器科及び産婦人科領域の視点に立った心身の健康状態の維持・増進を図るため、泌尿器疾患や女性特有な疾患について、その基礎的臨床的な知識及び評価、治療を学ぶ。

【学習目標】

【一般目標】

発達障害分野の理学療法の実施計画を行うために、その実際について学び、計画を立てることができる。

【行動目標】

1. 発達障害分野の対象となる疾患群の障害像を説明できる。
2. 発達障害分野の対象となる疾患群に対する評価を計画できる。
3. 発達障害分野の対象となる疾患群に対する介入を計画できる。
4. 泌尿器科及び産婦人科分野の理学療法を理解し、適切に説明できる。

【学習内容】

| 回       | テーマ              | 授業内容および学習課題                                    | 担当者   |
|---------|------------------|------------------------------------------------|-------|
| 1<br>}  | オリエンテーション        | 本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明<br>ゴール・介入の考え方    | 大須田祐亮 |
| 2       | 概略               |                                                |       |
| 3<br>}  | 原始反射             | 原始反射の誘発                                        | 大須田祐亮 |
| 4       |                  |                                                |       |
| 5<br>}  | 運動発達             | 運動発達の体現                                        | 大須田祐亮 |
| 6       |                  |                                                |       |
| 7<br>}  | 姿勢評価             | 各疾患に対する立位・座位の姿勢評価                              | 大須田祐亮 |
| 8       |                  |                                                |       |
| 9<br>}  | 姿勢評価             | 各疾患に対する背臥位・側臥位・腹臥位の姿勢評価                        | 大須田祐亮 |
| 10      |                  |                                                |       |
| 11<br>} | ポジショニング          | 新生児・重症心身障害児者に対するポジショニング                        | 大須田祐亮 |
| 12      |                  |                                                |       |
| 13<br>} | 摂食               | 摂食機能の発達と評価・介入                                  | 大須田祐亮 |
| 14      |                  |                                                |       |
| 15<br>} | 泌尿器科・産婦人科分野の理学療法 | 骨盤底、生殖泌尿器の仕組み、妊娠、泌尿器科及び産婦人科疾患、評価と理学療法介入について学ぶ。 | 大内みふか |
| 16      |                  |                                                |       |
| 17<br>} | 動作観察・分析          | 筋ジストロフィーの動作観察・分析                               | 大須田祐亮 |
| 18      |                  |                                                |       |
| 19      | 動作観察・分析          | 脳性麻痺の動作観察・分析                                   | 大須田祐亮 |

| 回        | テーマ           | 授業内容および学習課題                        | 担当者   |
|----------|---------------|------------------------------------|-------|
| 22       |               |                                    |       |
| 23<br>24 | 歩行観察・分析       | 筋ジストロフィーの歩行観察・分析                   | 大須田祐亮 |
| 25<br>26 | 歩行観察・分析       | 脳性麻痺の歩行観察・分析                       | 大須田祐亮 |
| 27<br>28 | 理学療法介入        | 発達障害分野の理学療法介入                      | 大須田祐亮 |
| 29<br>30 | Paper patient | 紙面上の情報から症例に必要な理学療法評価、介入、問題点、目標を考える | 大須田祐亮 |

#### 【評価方法】

筆記試験 85%

平常点（授業態度、提出物など） 15%

#### 試験に関するフィードバックの方法

- ・ 定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には模範解答を開示する。

#### 【備考】

教科書：上杉雅之 監修 「イラストでわかる小児理学療法」 医歯薬出版

参考書：上杉雅之 監訳 「脳性まひ児の家庭療育」 医歯薬出版 2013年  
大城昌平 他 編 「新生児理学療法」 メディカルプレス 2008年  
木原秀樹 「新生児のポジショニングノート」 メディカ出版 2013年  
上杉雅之 監訳 「乳幼児の運動発達検査」 医歯薬出版 2010年  
近藤和泉 他 「GMFM粗大運動能力尺度—脳性麻痺児のための評価的尺度」 医学書院 2000年  
里宇 明元 他 監 「PEDI—リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法」 医歯薬出版 2003年  
上杉雅之 監訳 「親と専門家のための脳性まひ児の運動スキルガイドブック」 医歯薬出版 2015年  
上杉雅之 監 「イラストでわかる小児理学療法学演習」 医歯薬出版 2018年  
日本リハビリテーション医学会 監 「脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第2版」 金原出版 2014年  
\* 上記は以下でダウンロード可能  
[http://www.jarm.or.jp/wp-content/uploads/file/member/member\\_publication\\_isbn9784307750387.pdf](http://www.jarm.or.jp/wp-content/uploads/file/member/member_publication_isbn9784307750387.pdf)  
ウィメンズヘルス理学療法研究会 編 「ウィメンズヘルスリハビリテーション」 メジカルビュー社 2014年

#### 【学習の準備】

発達障害理学療法学で配布した資料や教科書対応ページを参考とし、各回の授業内容について予習すること（80分）。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学習を深めること（80分）。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに理学療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。

#### 【実務経験】

大須田祐亮（理学療法士）、大内みふか（理学療法士）

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉法人での実務経験を活かし、発達段階において生じた障害を持つ子どもや泌尿器科及び産婦人科分野の対象者への理学療法について、演習や体験を通じて実際の評価や介入への理解が深まるよう講義する。